

話さないのではなく **話せない**のです

家では普通に話せるのに、家以外の場所では話せない子どもたちがいます。どの学校にも一人か二人いるのではないかとされています。

このような子どもたちは、わざと話さないのではありません。わざと無視しているのではありません。本人もどうして声が出にくいのか、わからないのです。話せないことで、本人もとても苦しんでいます。声が出にくいだけでなく、体も思うように動かせない子どももいます。

なぜ話せないのでしょうか？

原因は、まだはつきりとはわかっていませんが、脳の扁桃体（へんとうたい）の部分が、普通の人も強く反応しやすいのではないかという説があります。

生まれつき敏感で脳が危険を感じやすく、不安を感じるとどの筋肉がかたくなり、声が出にくいのではないかとされています。



家庭でのしつけ、育て方が原因ではありません。本人の努力が足りないわけでもありません。

気をつけることは？

返事やあいさつが出来なくても責めないでください。

話すように言ったり、話さないことを責めたりすると、不安が高まり益々話せなくなってしまう。

どう接したらいいのでしょうか？

- 子どもが安心できるようにする。
 - 答えや反応を求めず、自然に温かく接する。
 - 出来ることを見い出して、さりげなくほめる。
- 話すことを目標としないで、楽しく安心できるようにすることを目標としてください。
- 子どもの不安を減らし、自信をつけさせ、人との楽しい体験を持つことが大切です。
- 周囲との温かい関わりの中で、時間をかけて徐々に話せるようになることが多いようです。

自発的に声が出るまで見守ってください。